

「サーキュラーエコノミーポート」を初選定（国交省港湾局） 九州は北九州港・三池港を選定、広域的な資源循環ネットワーク構築へ

国土交通省港湾局は27日、循環経済（サーキュラーエコノミー）の実現に向け、循環資源の物流拠点形成や高度なリサイクル産業の集積に取り組む港湾を「循環経済拠点港湾（サーキュラーエコノミーポート）」として全国29港を初めて選定した。九州地方整備局管内からは「北九州港」（福岡県北九州市）と「三池港」（同県大牟田市）の2港が選ばれた。

循環資源の流動量増や種類の増大、小口輸送ニーズへの対応など社会的要請に応えるため、港湾管理者、リサイクル事業者、物流事業者、関係省庁等が連携して拠点形成を目指す。北九州港（国際拠点港湾）は、平成14年のリサイクルポート指定以降、循環資源取扱量は指定当初の約4.2倍（200万トン超/年）に増加。響灘地区を中心に都市鉱山や太陽光パネル、プラスチック等のリサイクル産業が集積し、近年は電炉鉄鋼メーカーの動向や再生可能エネルギー拠点としても発展している。

また、三池港（重要港湾）は平成15年の指定以来、大牟田エコタウンを中心に資源リサイクル産業が集積し、年間30万トン以上の循環資源（石炭灰やフライアッシュ等）を取扱っている。

国の支援策では、国交省が循環資源取扱支援施設（保管・蔵置場等）の整備支援を実施。環境省が「再生材供給サプライチェーン構築支援事業」において、選定港での荷役設備等の整備に対して審査時の加点措置を実施予定となっている。

[北九州港（国際拠点港湾）・三池港（重要港湾）の概要](#)